

まちなみ通信 ものがたり

発行：NPO みのお市民まちなみ会議 発刊第 50 号 2013 年 11 月

新幹線の車窓から見るまちなみ景観

先日、久しぶりに新幹線で大阪東京間を往復する機会があった。つれづれなるままに車窓から外を眺めていて、野立て看板が非常に少ないように感じた。新幹線のスピードが速く、野立て看板が見づらく、効果が少ないこともあるのだろうか。立っている看板もデザインがシンプルで、色遣いが簡素であった。(白地に赤、羽毛布団の野立て看板、インターネットから探録)



そういえば最近、郊外電車の沿線でも、野立て看板が少なくなったように思うがどうだろうか。乗客は車窓から外を眺めることが多いから、鉄道沿線の野立て看板は宣伝効果が大きいと言われる。しかしこれが林立すると、自然景観やまちなみ景観を著しく損ねることも事実である。

調べてみると、鉄道沿線の野立て看板に対しては、一応の規制があり、鉄道用地から 30m 以上離さないといけないこと。また、高さは 5m まで、表示面積は 30m²未満であること。さらに自然景観を損ねないために、地色に黒及び原色の使用は禁じられている。(ただし、自社の敷地や商業地の場合はこの限りではないとされる。) 静岡県などでは富士山近辺の景観を維持するために、新幹線沿線の野立て看板をより厳しく規制している。

新幹線が市街地に入ると、今度は住宅の家並みが汚いのにも今更ながら驚く。とくに大都市周辺に広がる住宅地の家並み景観は、非常に雑然として見苦しい。バブルの時代に、計画性なく建てられたいわゆる新興住宅地であろうか、建物のデザインも、使用する屋根材も外壁材も、色といい形といい材質といい、種々雑多で統一性がない。家々の間の土地空間があまりなく(庭がなく)、緑が少ないことがさらに雑然さに拍車をかけている。

これに比べてヨーロッパのまちなみは何となく統一性がある。基本的に石造り・瓦葺屋根で、その地に産する材料を使っていることと、長期の耐久性があることから、自然に地域性や統一性が出てくるように思われる。(ロンドンのホテルでたまたま住宅のレンタルの雑誌を見たことがある。100 年以上経った、相当古い借家が意外と高いのである。むしろ築後の年数の長いもののほうが、却って家賃が高いのである。ロンドン市内の中流の一般市民は個人の住宅を持たず、家族の増減や構成の変化に従って、借家を住み替えてゆくのだ

という。またそうした借家のほとんどが家具付きなので、家具などの好みの変化によっても住み替えをするのだという。住宅に関する感覚に日本と大きい差があることに驚いた経験がある。地震や火事も少ないのだろう。)

人口密度の高い東海道ベルト地帯を走る新幹線の車窓から眺めていて、景観、とくに箕面のように住宅地を中心とする郊外中都市の「都市景観」について考えさせられた。既存の住宅街はともかくとして、これから発展してゆく市街、箕面でいえば止々呂美の森町や彩都などのまちづくりのランドデザインや、人々が美しいと考えるまちなみ、箕面でいえば牧落百楽荘や桜ヶ丘などの住宅地の景観維持についてどうすればよいか。“良い景観”とは何か。“良い景観・美しいまちなみ景観”と人が感じる要素は何なのだろうかと……。

私たち“まちなみ会議”が昨年来取り上げている、目で見えるみどりの量「緑視率」は都市景観にとって大きな景観要素の一つであるという考え方が最近定着してきた。大阪府も、都市景観要素の一つとし主要道路沿いの「緑視率」をテーマにとりあげ、研究を始めている。しかし良いまちなみ景観を構成する要素は「みどり」だけなのか。

私が住んでいる桜ヶ丘地区は、その一部が市の「景観形成地区」に指定されており、また紅葉橋筋、田村橋筋の地域の主要道路沿いは「景観配慮地区」に指定されている。景観に配慮するためには何を削り、何を補わないといけないか。その要素の一つが「みどり」であることは間違いない。目に見えるみどりの量として“緑視率”は有効なまちなみ景観の指標となると考えられ、その経年変化と変化の原因を今後とも追跡してゆきたい。しかし桜ヶ丘の景観要素は「みどり」だけではない。塀際のしつらえ、道路や交通標識、川や橋の景色、神社やその境内など文化的歴史的視点を含め多くの景観要素があるだろう。われわれみのお市民まちなみ会議としても、私自身としても、桜ヶ丘地区を一つのテーマとして、今後、まちなみ景観について勉強してゆきたいと考えている。(今枝章平)



桜ヶ丘の住宅街

箕面森町の住宅街



“日本最古の箕面富(みのおのとみ)復活で、伝統行事を守り、街の活性化を図る”

箕面富実行委員会

平成21年4月設立、 実行委員長 花畑 舜一

ジャンジャンと独特の音色を響かせて菊公帆奏師による奉納筑前琵琶が奏でられ、瀧安寺本堂前に集まった多くの聴衆の心に厳かに沁みていく。10月10日好天に恵まれた箕面富の開幕風景だった。

今年で復活5回目の箕面富の富くじ突き行事は演奏が終わると、ほら貝の音を高らかに山々に響かせ、誘導された住職を中心に富役人らが本堂で参拝後、富箱が用意された。副委員長の武藤さんらの捧げる富札(木札)を、本堂前で確認され、次々に富箱に投入され、大きな箱を前後左右に動かして、富札を分散させた。



奉行を勤める副住職の若々しいが、厳かな声で「一の富……」と高らかに告げられると、住職が先端に錐を付けた棒を富箱に突き刺し、一枚の富札を引き上げた。検番が札の番号を確認し、「一の富〇〇番」と声高く告げた。固唾を飲んで見守っていた観衆は、手元に握った控え札と照合し、肩を落とす。「当たった、当たった!!」と声を上げて富札を突き出して、前へ進み出る人が現れ、多くの観衆の羨ましが眼と、残念の眼差しを浴びた。



再び「二の富……」「三の富……」と告げられ、次々に富札が突き上げられ当選者が決まっていた。残念賞の招福富もあり、笑顔が境内に広がった。何度も富を当てる方が出て、会場が羨望と疑惑のささやきが湧いたが、昔からの習慣で家族・親戚・近隣の人々の代参で富を求める方が数人おられ、当たり富は瀧安寺のお守り(他の富くじと異なり豪華賞品や黄金は無い)と伺い、疑惑

の目が消えた。悲喜こもごもの箕面富も終了し、最後に花畑委員長の挨拶があり、その中で箕面富に係わるご苦労の一端を披露された。瀧安寺には沢山の古文書が保存されており、この中から箕面富に関する記述を実行会員らが丹念に調べ、解説に大変なご苦労を重ねて、往時の姿を出来るだけ忠実に、完全復活を目指して、回を重ねながら昔日のにぎわいを図っておられることを話されていた。

箕面の富が瀧安寺の歴史的行事の復活だけでなく、箕面の街おこしの一端として、多くの市民の支援を得て、市の内外から多くの参加者で賑わうことを祈ります。

みどり 緑 みどり 緑

街路樹の悩み

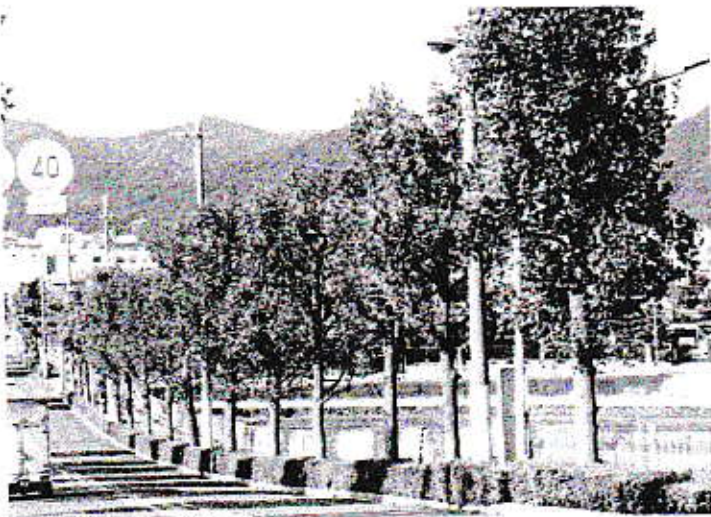
例年台風シーズンを前に、箕面市の道路課は、街路樹の剪定を始めます。これは、街路樹が道路構造上、根の伸びる方向が道路の進行方向に伸びる為、道路の直角方向には、非常に弱く台風などの強風で、倒れる懸念があるため、台風襲来前に枝や葉を落とす剪定作業に入ります。勿論、秋の紅葉後の落ち葉対策も兼ねます。

特に市役所前から中小学校への中央線は、例年になく早く剪定されました。(8月末から10月に掛けて連続で台風発生)しかし、今年は何だか様子が変わって、みどりが多いのです。此処の区間はプラタナスプラの街路樹が道の両側に植えられ、毎年幹に伸びた枝に大きな葉を茂らせ、豊かなみどりと日陰で街並みに潤いを与えて呉れます。私たち市民まちなみ会議が取り組んでいる緑視率(人の視野に占める緑の割合)を高める観点からも好ましいことです。しかし、台風などで強い風を受けると、倒れやすい難点があり、例年他の街路樹より早く剪定され、丸坊主で幹だけが丸太棒の様に並びます。



ところが、今年幹の脇に生えた小枝を残して剪定したため、みどりの太い柱となって、まちなかのみどりの潤いを残しました。特に9月の残暑は葉の茂りがみどりを濃くしました。恐らく道路課の知恵の結晶だと思います。

そんな視点で、市内各所の街路樹を観ると、例年になく樹々のみどりが豊かに感じます。特に市立病院への登り坂は、萱野の田園地帯が稲刈り後、一面土色の風景に変わりますが、これをカバーする様に、ひときわ美しい景観を演出しています。とは言え、冬になると大半は落葉し、後始末が発生し、費用も余分に掛かります。(剪定時の費用に加えて)



私達は、みどりが街の景観の重要な要素であることを承知しています。一方で、台風被害を防ぎつつ、少しでも長くみどりを

維持するならば、その分費用は多くなります。街路樹の維持管理は税金でまかなわれますから、市民一人一人の問題です。みんなで考えましょう。

(大町 凱彦)